

平成26年度 輪島市立大屋小学校 学力向上プラン

I 本校の実態 (○良好 ▲課題)

教科に関して	生活面に関して
<p><b>1 学力調査等の結果から</b></p> <p>国語…○「話すこと聞くこと」領域や「書くこと」領域の問題に改善がみられる。 ▲各学年ともいくつもの情報から必要な情報を取り出し、条件に合わせて書くことが苦手である。</p> <p>社会…○県の地理的な理解や産業など基本的な事柄が身につけてきている。 ▲時事問題や思考力・判断力を要する問題に慣れておらず経験が不足している。</p> <p>算数…○問題に対し最後までねばり強く取り組む児童が増えてきている。 ▲A・B問題とも、県を下回る結果であり、全校的に問題の文章をしっかりと読み、課題を把握する力が不足している。</p> <p>理科…○基本的な事柄が身につけてきた。 ▲実験や観察の技能や、既習を活用して考える問題に課題が残る。</p> <p><b>2 その他(教科で共通して)</b></p> <p>○基礎基本の問題について改善傾向にある。 ○最後まであきらめずに取り組もうとする児童が増えてきている。 ○根拠を表して考えを書く児童が増えてきたが、理由説明を的確に書くことに課題が残る。 ▲読み取りの力の不足が様々な教科に影響を与えている。また、複数の資料から必要な情報を選んで考えること、結びつけて説明すること、条件に合わせて書くことに課題がみられる。</p>	<p><b>1 家庭での学習習慣</b></p> <p>○家庭学習は、「20・40・60運動」「家庭学習の手引き」などの取組により定着が見られる。 ▲学習習慣が未定着な児童や、自主学習の取組内容に課題がみられる児童がいる。</p> <p><b>2 学習に必要な用具</b></p> <p>○学習用具を忘れて学習に取り組もうとしない児童も、「持ち物スタンダード」や「忘れ物ゼロ作戦」などの取組により改善してきた。 ▲学習用具を忘れる児童は1割程度みられ、固定化傾向にある。</p> <p><b>3 読書</b></p> <p>○朝読書、家庭読書を推進することで楽しんで読書をする児童が増えてきている。 ▲学年に合った内容の読み物に抵抗感を持つ児童もいる。</p> <p><b>4 人間関係の改善による学力の向上</b></p> <p>○本校の児童の人間関係は、Q-Uやいじめ調査の結果によると学級によって差があるものの比較的安定している。 ▲人間関係が不安定で信頼関係が低いほど、意欲的に表現する児童が限定される傾向がある。</p> <p><b>5 その他</b></p> <p>○ベル着を意識し、落ち着いて学習を始められるようになってきた。</p>

II 指導改善の課題

授業づくりにおいて	基盤づくりにおいて	体制づくりにおいて
<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中で、根拠をもとに自分の考えを、論理的に伝える力をつけていくことが必要である。</li> <li>各教科で言語活動を多く取り入れ、指導事項の定着を目指した授業改善が必要である。</li> <li>複数の資料から、必要な情報を選んで考えたり、関連づけて説明したりできる力を児童につけていく。</li> <li>説明的文章、数量関係領域に課題があるので指導法を改善する。</li> <li>既習の内容のふり返りを工夫する。</li> <li>それぞれの考えを伝え合い、深め合うための指導法の工夫改善を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習を支える基盤としての読書活動に課題がある。学年に応じた内容の読書を推進していく。</li> <li>条件に応じて書くことができる児童を増やし、内容の質的向上を図る。</li> <li>基本的な「話し方」「聞き方」を具体的に示し、指導してきたが、さらに相手を意識したものに高めていく必要がある。</li> <li>基礎的な生活習慣の定着や家庭学習の習慣化を図る。学習時間の確保や内容の充実を進める。</li> <li>自己肯定感を高めるために、生徒指導の三機能を生かした人間関係づくりに取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究推進委員会が中心となり授業改善を進めるとともに、授業研究会の活性化を図る必要がある。</li> <li>授業研究会で課題を明らかにし、今後の授業に生かし継続的に取り組んでいく。</li> <li>一人一役の取組の改善と取組の重点化が課題である。</li> </ul>

### III 具体的な取組ポイント

授業づくり	基盤づくり	体制づくり
<p>○考えをもち、根拠をもとに学び合う授業の実践 ①⑤⑥</p> <p>【考える】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習を生かすことができるようにこれまでカードの活用や教室掲示をする。</li> <li>・自分の考えやその根拠、理由を書く活動を授業の中に位置づけ、説明に生かせるノート作りをすすめる。</li> <li>・教科書の文や図、資料などをもとに根拠を見つける。(叙述に線を引く、読み取ったことを図にかくなど)</li> </ul> <p>【深める】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えが深まるように、学び合いの場を工夫する。(学習形態、視聴覚機器、友達の考えの説明、言葉や式・図・表の活用など)</li> <li>・児童の考えをつかみ、切り返しの発問や児童の考えをつなぐ支援をし、学び合いの場が深まるようにする。</li> </ul> <p>【まとめる】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題のまとめをし、学習を振り返る場をもつ。(適用問題、学習のポイントなど)</li> <li>・「考えを持った、発表した、わかった」の3点について自己評価をする。</li> <li>・話し合っってわかったことや友だちの考えから学んだことを話したり、書いたりしてまとめる。</li> </ul>	<p>○書く活動の推進④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・字数や条件をつけた作文・「100字作文」の取組や課題に対して理由や根拠を示しながら自分の考えを書く活動をすすめる。</li> </ul> <p>○基礎・基本の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5限前の10分間を「スキルアップタイム」として設け、計算・漢字などの力を身につける。</li> </ul> <p>○家庭学習の習慣化と充実⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「20・40・60運動」をすすめる。</li> <li>・「家庭学習のてびき」を活用する。</li> <li>・よいノートを紹介する。</li> </ul> <p>○学習環境の改善・充実⑦</p> <p>『大屋小学校学習・生活スタンダード』をもとに、全職員が共通に取り組み、児童が落ち着いて学習できる環境の改善・充実を図る。</p> <p>○読書活動（朝読書・家庭読書）の推進⑧</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の15分間の全校一斉読書</li> <li>・ブックリスト一人5冊の読破をめざし、学年に応じた読書をすすめる。</li> <li>・家庭読書を習慣化する。(家庭と連携して)</li> </ul>	<p>○研究推進委員会を中心に授業研究を通して、指導方法の工夫・改善を進める。⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導案検討、模擬授業などを行い事前検討会の充実を図る。</li> <li>・授業整理会では、ワークショップ形式を取り入れ協議の視点を明らかにし、改善点を明確にする。</li> </ul> <p>○部会の取組⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業づくり部会」「基盤づくり部会」が中心になり具体的取組を進める。</li> <li>・効果的な取組になるために、研究推進委員会で全体的な計画の調整を行う。</li> </ul> <p>○奥能登スタンダードをもとに、『大屋小版スタンダード』の見直しを進める。⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「言語活動による指導事項の定着」にあてた学校裁量の時間の見直しをする。</li> </ul>

### IV 検証方法

- 学年部ごとのノートモデルに照らして児童ノートを検証し、80%以上の児童が 自己の考えを書くことを目指す。
- 単元テストやチャレンジテストなどを用いて学習内容の定着を確認する。(全校平均80%)
- 全国学力学習状況調査・県基礎学力調査の分析結果から取組の有効性や課題を考察する。
- 輪島市学力調査の分析結果等を用いて変容を確認し、取組が有効であるかどうかを検証する。(全国平均より2ポイント上)
- 児童アンケートを実施し、「達成感」と「授業がわかる」について80%以上の児童が肯定的に回答することを目指す。(年3回)